

2021 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [横浜市立本宿中学校] 担当教諭名 [野口 雅史] (有志 21名・芸術部 12名)

相手国・地域 [インドネシア]

海外学校名 [SMP Labschool Cibubur] 担当教諭名 [Heri Septiawan]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	課外活動	アートマイル国際協働学習プロジェクト	35

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	“Harmonious Life on Earth”
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	地球を大切にし、調和のとれた生活を目指していく。そのためには、誰もが尊重され、自然を大切にする。そんな世の中にしていきたいと思います。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> SDGsの学習については、様々な教科の学習ともからめ、深めることができた。 海外の同年代の生徒と共に学び、共に作業するという貴重な経験を得られ、子どもたち自身がその貴重な経験を実感していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 有志の活動であったため、時間の確保が一番の課題であった。 感染症の対応などイレギュラーなことが双方の国であり、思うように学習を進めることができなかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> 相手国の様子についてSDGsの観点から話を聞き、日本の課題と比較することで、より理解が深まっていた。 自分の調べたことや考えを直接インドネシアの生徒に発表する機会があり、生徒たちがアウトプットすることで、学習の成果を実感していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちをいかに「その気にするか」で学習の効果が著しく変わっていくということを実感した。モチベーションづくりや成果の確認などを通して、充実した活動を目指した。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月	自己紹介動画をフォーラムに掲載した。相手校からは、自己紹介の写真を送ってもらった。	インドネシアの生徒から届いた写真を見ていく中で、子どもたちの本プロジェクトへの意欲の高まりを感じた。	課外学習 5
共有 テーマ学習	9月 10月	SDGsの中から、扱っていく項目を決めた。その結果、10と14を双方の共通項目とし、加えて相手校は13を、本校は15を扱うことにした。	自分たちで学習したい項目を選んだため、意欲的に調べ学習に取り組み、その後のグループ活動に励んでいた。	課外学習 10
融合 メッセージ作成	11月 12月	双方の学校で調べたことをまとめ、オンライン会議を開き、発表を行った。発表をしていく中で、共通点から壁画のテーマを決めていった。	発表の準備の中で、グループ内での会話がより活発になり、学びが深まっていった。	課外学習 9
創造 壁画制作	12月 ～ 2月	双方が案を出し、意見を出し合っでデザインを決定した。その後、それぞれの学校で半分ずつ壁画の制作を行った。	一生懸命制作する様子が見られた。制作をしていく中で、日本やインドネシアについてさらに調べたりする様子も見られた。	課外学習 10
評価 振り返り 自己評価	3月 (4月)	双方の制作が遅れたため、写真で完成した壁画を鑑賞し、これまでの取り組みを振り返った。	完成した壁画の写真を見た時の子どもたちの様子はとてもうれしそうであった。実物が届き次第、さらに振り返りを深めたいと思っている。	課外学習 1

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つけたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	4	先入観にとらわれず、相手や相手国のことを理解しようとしていた。自国のことを再認識する機会がもう少し作れたらよかったのではないかと感じている。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	SDGsについての学習は、過去に本プロジェクトに参加した時と比べ、とても深まったように感じた。しかし、情報の収集ではなく、批判的に考えることに関しては、さらに高めていく必要があるように感じた。
主体的に考え行動する力	4	SDGsについて調べたことを発表するために、それぞれのグループでとてもよく会話をし、「どうやったらより伝わるのか」など相手意識をもって主体的に取り組んでいる様子が見られた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	語学力による限界があったが、相手のことを理解しようとする姿勢をもって取り組んでいた。また、自分たちのことを伝えたいという気持ちも強くあり、「協働」という意識を持ちながら取り組めたと感じている。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	双方の学校の共通した部分をもとに、メッセージを込めた壁画制作をすることができた。「想い」があったからこそ、こだわりをもって、制作することができていたと感じている。